

- 1 **主題名** 自分の心に誠実に（教材名「手品師」日本文教出版）
- 2 **ねらい** 葛藤しながらも男の子の前で手品を披露した手品師の思いについて考えることをとおして、自分の納得する選択をすることの難しさに気づき、自分自身に対して誠実に生きようとする実践意欲と態度を育てる。

### 3 主題設定の理由

#### (1) ねらいとする価値について

本主題は、内容項目A-2「誠実に、明るいい心で生活すること。」をねらいとしている。

誠実には、私利私欲をまじえず、真心をもって人や物事に対するという意味がある。また、周りの状況に流されずに自分が信じたことを選択する様子でもある。誠実であろうとすることは、よりよく生きていくうえでも必要なことである。

この期の子どもは、自分の思うとおりに生活をすれば気持ちが晴れ晴れすることを理解しながらも、嘘をついたりごまかしをしたりしてモヤモヤしたという経験を少なからずしてきていると思われる。一方で、周りからの目を気にする時期でもあり、自分の気持ちを優先するだけでなく周囲と折り合いをつけながら生活していこうという気持ちも芽生えてきている。そこで、このような内容を学習することは、誠実であるとはどのようなことなのか考え、よりよく生きるために、物事に対して誠実な対応をとろうとする心情を育成するうえで意義がある。

#### (2) 子どもについて

本学級の子どもは、素直であり、思ったことを正直に伝えることができる子どもが多い。また、相手の立場になって考え、自分の考えとの相違に気付くことができる子どもが多い。一方で、友達のやりたいことを優先してしまい、本当に自分がやりたいことを言い出せずに周囲に合わせてしまう子どももいる。これは、自分が思っていることを正直に言えず、自分が我慢すればよいという考えに基づいていると考えられる。

道徳科の学習においては、登場人物に共感したり、友達との話合いをとおしてテーマについて深く考えたりできる子どもが多い。また、心情円やスケールチャートを活用して自分の考えを視覚化することで、積極的に友達と交流しながら考えを深められるようになってきた。一方で、互いに質問し合うなかで、多様な意見を基にした建設的な議論をし、よりよい考えを導き出していくまでには至っておらず、今後も指導を続けていく必要がある。

#### (3) 教材について

そこで、教材「手品師」（日本文教出版）を用いて学習を進める。本教材は、腕はよいが売れない手品師が、一人の男の子に手品を見せ、喜ばせたことで翌日にも会う約束をするが、その日の夜に友人から夢だった大劇場出演の依頼を受け、「夢の大劇場の出演」と「男の子との約束」との間で葛藤の末に、男の子との約束を選択するという内容である。

#### (4) 指導について

この教材を用い、ねらいと向き合わせるために、導入の段階では、教材の範読後すぐに本教材から手品師が何に悩んでいるのかを問うことで、手品師が夢の大劇場と男の子との約束で悩んでいることに気付かせ、本時の教材で考えていく内容についての問題意識がもてるようにする。

展開の段階では、夢の大劇場に挑戦してみたいと思う気持ちと、男の子との約束も大切にしたいという手品師の葛藤をペア活動で役割演技させる。その後、代表児童に役割演技で表現させ、出た発言等を構造的に板書し、手品師の葛藤に気付くことができるようにする。そして、手品師が男の子の前で手品を決意した際に後悔はなかったのか、心情円を活用して手品師の心情を考えさせる。手品師が男の子との約束を選択した理由を考えさせるなかで、適宜問い返しを行い、誠実に生きることについて考えを深めることができるようにする。

終末の段階では、手品師の生き方に学ぶことはどんなことか考えさせることをとおして、手品師の葛藤が誠実に生きたいという悩みであることに気付かせ、考えを深められるようにする。また、誠実に生きることの難しさや自分の思うとおりに生活していくことの大切さにもふれ、自分たちの生き方をよりよいものにしていきたいという気持ちに気付くことができるようにする。



<p>とだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の選択に後悔がないようにする。</li> <li>その後に自分がよいと思った方を選ぶ。</li> <li>自分でしっかりと決めること。</li> </ul>	<p>る。</p>	
--	-----------	--

6 本時の評価規準

主人公の心情の変化やこれまでの自分の行動のふりかえりを基に、誠実に生きる意義について考え、誠実に生きる難しさやその大切さを理解しようとしている。 【道徳ノート】

7 板書計画

